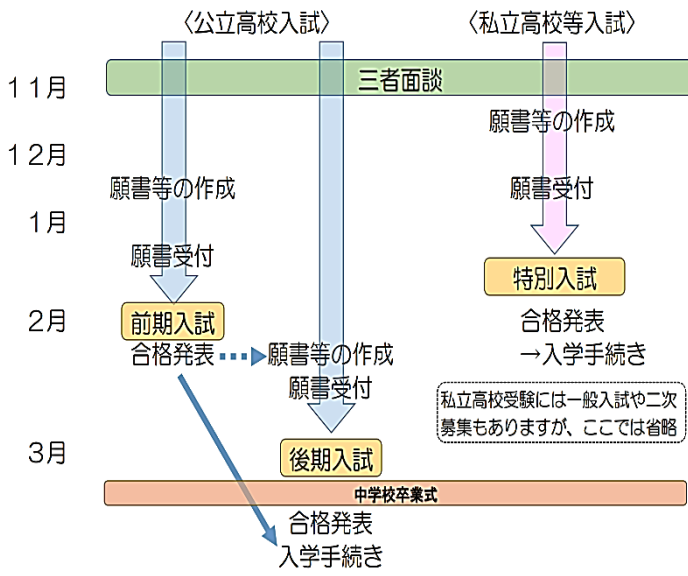




なりたい自分と なれる自分

三年生は、いよいよ進路選択の季節に入りました。これから次のスケジュールで進んでいきます。（左図は、ほんとうにざつくりとしたスケジュールで、この行間に様々な手続きや面談、意向の確認、諸準備のほか、生徒自身の「決断」があります。）



表題に「なりたい自分」と「なれる自分」と記しましたが、どちらも大事です。夢や希望をもって将来の自分をイメージすること（なりたい自分）と、それが絵に描いた餅にならないよう、求められる力（学力や体力、競技力、試験の得点力、面談力など）を高めることの両方を確実に実現することによって未来は拓かれていきます。

その点において、つくづく次の「習慣」が大切だなぁと実感しています。（現実として「その後」の姿を見てきましたので…）

**努力をコツコツと積み重ねる
決まりをきちんと守る
素直に学ぶ（話を聞く）**

そのほかに「あいさつ」や「返事」、使ったものの「後片付け」、「友達を大切にすること」、「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えることなども大切です。このようなことができる子どもは、勉強や運動の成績に関係なく、幸せに生きているような気がします。…しかしながら、受験期に入ったからには、今在る自分を鼓舞し、次のことを実践していきましょう。

一所懸命

そんな彼らを全力で応援（ときに喝を入れながら）していききたいと思えます。保護者の皆さん、一緒に頑張りましょう！



《コラム 港町ブルース》

世の中に求められる人（力）

学校関係者以外の方とお会いした時には一つの質問をお願いするようにしています。

「どのような人材が欲しいですか？」

最近いただいた回答は、以下のとおりです。

「自分からどうするかを考える人」

…新田鉄工所の松尾さん

「自分が苦手なことをはつきりと人に伝えられる人」

…小川石油の南さん

「人に好かれる人」…長崎県立大学 浅田学長

学習指導要領（学校教育の基本マニュアルのようなもの）にないこれらの文言を、どのようにに教育活動に編み込んでいくかが求められていると心に刻んでいます。そしてもう一つ、「ふるさと（口津）を想う力」も付け加えて…。

《 主な行事予定 》

- 〈10月〉
13日（金）実力テスト（3年生）
↑進路決定に重要…でした。
18日（水）中間テスト ～19日
進路説明会（3年生）
25日（水）修学旅行（2年生）
（↑弁当不要）～27日
27日（金）校外学習 1・3年生
（↑要弁当）
- 〈11月〉
2日（木）文化学習発表会
7日（火）三者面談（3年生）
～17日
15日（水）福祉体験学習（3年生）
22日（水）食育指導（1年生）
27日（月）期末テスト ～29日

《心に響いた言葉》 「ふるさとを元気にしたい」／「ふるさと学習講演会」の講師、モリケンさんと泉さんの言葉から。お二人とも、この口津の魅力や可能性の高さをお話されていました。このことを生徒たちに気づかせたいと思います。

シリーズ「教育を取り巻く社会の動向」

長崎県教育振興基本計画から

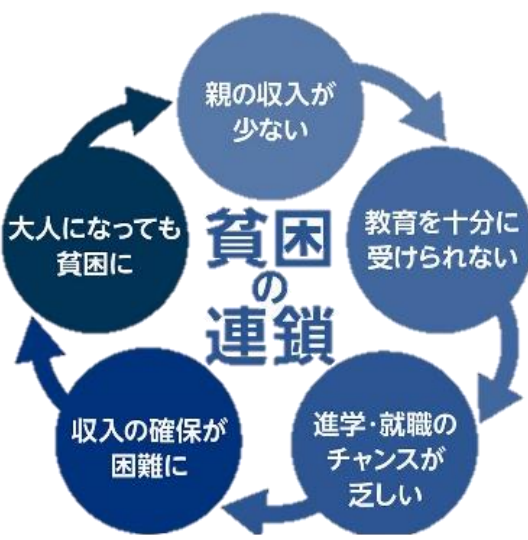
〈第七回〉

貧困の連鎖

「貧困」というと、一昔前は発展途上国や紛争地域に生じるものという認識がありました。しかし、「日本の中でも『子どもの貧困』があります。／政府広報オンラインから」

家庭の経済状況や環境等により、子どもたちの進学機会や学力等に差が生じているという指摘があります。教育格差が原因となって就職等にも影響し、生涯賃金などの経済的格差の拡大や、社会の階層化を招くなど、貧困の連鎖につながることが危惧されています。

長崎県教育振興基本計画から



〈相対的貧困〉とは

「貧困」は、一つに分けられていて、食べるものがないとか家がないという状態を「絶対的貧困」とし、そこまではいかなけれど、大多数の世帯に比べて貧しい状態を「相対的貧困」と言われています。

〈相対的貧困の例〉

- ・ 栄養バランスのとれた食事は、一日の中で給食しかない
- ・ 高校や大学、専門学校に進学したいけれど、経済的な理由であきらめている
- ・ 頑張っても仕方ないと将来への希望をなくし、学ぶ意欲をなくしている
- ・ こどもだけの時間が多く、保健衛生などの知識や生活習慣が身につかない
- ・ 視野を広げる機会や文化的な体験に乏しく、生き方のモデルがない
- ・ 人とのつながりが少なく、社会的に孤立している

今、国や自治体などは、



絶対的貧困をなくすことはもとより、相対的貧困も「社会の未来に大きく影響」するとして、さまざまな対策を講じています。「児童手当」や「就学援助」「高校生等の修学支援」のほか、保護者を守ったり、相談を受け付けたりする仕組みがあります。本市が行っている英検の受験料補助も、その一つと言えるかもしれません。重要なのは、「困ったときはお互い様」として気兼ねなく援助を受けることだと思っています。まずは、とにかく御相談を。本校としては、学力や体力を高めるとともに、助け合い、支え合う心を育てることなど、「生きる力」を高めることが責務だと考えています。

ふるさとの文化・歴史・人物 ― 口之津中教育の視点から

「口之津歴史民俗資料館 分館」

本市のホームページには、この資料館の歴史とその価値が綴られています。

口之津歴史民俗資料館分館は、その一部を旧長崎税関口之津支署庁舎を改修し使用しています。税関は、明治五年に今日の税関の前身である運上所から改称されて正式に発足して以来、我が国の貿易の健全な発展と安全な社会の実現に大きな役割を果たしてきました。
(南島原市HPから)

この資料館には「からゆきさん」の歴史のほか、ポルトガルとの交流から現代にいたるまでの生活用品なども展示されていて(中には、「これ使っていたなあ」という品まであつて複雑な気持ちになります)、盛りだくさんのお薦めの資料館です。ちなみに下の写真は「ウーバーイーツ」の元祖と私は心から思っているのですが、いかがでしょうか。



【お知らせ】御相談はお早めに！

三年生の受験に関することをはじめ、友達関係のこと、就学支援のことなど、生徒に関する不安や悩みなどについては学校を通じてスクールカウンセラーや各種の相談機関、スクールソーシャルワーカーを通じて各種の専門機関につなぐことができます。遠慮されず小さいうちに御相談ください。

